

ゆるい しゅうかつしんぶん 終活新聞

整理で困るものNo.1は「写真」！？ 写真はあとで「見返す」もの

終活は、基本的に大きく3つ「もの」「財産」「心」の整理をすることになります。その中でもっとも整理が大変なことが「写真整理」。思いがたまって手につかず、また自分の死後に遺族が困る遺品のトップです。写真はなぜ撮るのでしょうか？あとで思い出として見るためではないでしょうか？写真は「見返す」ことで人生の振り返りができ、人となりを感じ、心が豊かになります。いただいた写真がどっさり箱に入ったまま、整理したアルバムは古くて重く何年も見ていない、デジカメやスマホ撮影の写真は同じ構図がたくさん入りっぱなし…。写真は人それぞれの持ち方、保存したい最終形が違います。写真は自分の大切な思い出をすぐ見返すことができるようにしておくといきましょう。見返すことができる♪写真整理に取り組んでみませんか？

写真を「見返す」方法いろいろあります

- ★ プリントにする ・フォトフレームに入れる ・グッズにする
- ★ アルバムにまとめる
 - ・月ごとに決まった枚数で保存してみる
 - ・小さいポケットアルバムで入院時など持ち運べるようにする
- ★ フォトブックを作る
 - ・オリジナルの写真集をイベントごとに作成してみる
- ★ 年表(自分史)を写真付きで作る
- ★ テレビで見られるようにする(おもいでばこ等)



「写真整理」の流れの例

【紙焼き・アナログ写真】

1. 全体を把握する
2. 年表を作成し、時期を明確にする
3. 予算や作業方法など決める
4. 仕分けをする(年別などに)
5. アルバムにしたり、デジタル化する
6. 見返す

【デジタル写真】

1. 撮影後、不用な写真を消去
2. 予算や作業方法など決める
3. フォルダやアルバム機能で分類する
4. バックアップ
6. 見返す

□ 自分の素敵な写真を1枚持っておきましょう！

自分の遺影になる写真はありますか？家族がすぐ葬儀屋さんに渡せるようになっていませんか？慌てて用意できた遺影写真が子孫にとってのあなたになります。素敵な写真を元気なうちに撮影しておいて、日頃から目につくリビングに自分の素敵な写真を飾ることもいいですね。もしものことがあってもすぐ遺影に使えます。また、毎年自分の素敵な写真を撮影しておく、行って見たかった場所へ写真を撮りに行く、大切な人と一緒にいる写真を撮っておく、スタジオでプロに撮影してもらう…これらの行動も立派で楽しい終活です。

終活しなきゃと思ったきっかけに母の死があります。病院から家に遺体が帰ったものの遺影となる写真がなく、葬儀屋さんを待たせ、母をほったらかしにして写真探し。バタバタとお葬式が終わり、気がつけば母は骨壺の中でした。ゆっくりお別れができませんでした。自分の素敵な写真が1枚でもあれば…。■現在、写真は昔のアナログ写真もあれば、スマホ撮影したデジタル写真など大量に存在しています。写真はあの瞬間に戻れる魅力あるもの。写真整理アドバイザーとして写真の重要性も終活と併せて今後も発信してみたいです。■今号でゆるい終活新聞20号！何者でもないわたしが終活の重要性を伝えたいと自己満足で作成し、細々と配布。あまり知れ渡っていませんが、手に取った方が終活を意識し、行動し、少しでも前向きな気持ちになって今をよりよく生きる後押しとなり続けたいです！今後もゆるくお願いいたします。

